

小金井市人口ビジョン

小金井市まち・ひと・しごと

創生総合戦略

概要版



人口ビジョン～小金井市の現在

人口

117,427人

(平成27年1月1日住民基本台帳)

昭和33年に市制が施行される以前、昭和20年代より人口が急増し、現在も堅調です。平成22～27年の5年間における人口増加率は3.52%で、多摩26市で比較すると、稲城市、武蔵野市に次ぐ3位となっています。

高齢化率

20.37%

(平成27年1月1日住民基本台帳)

平成7年時点では12.36%だった高齢化率も年々増加し、平成27年時点では2割を若干超えています。人口についても、年少人口(0～14歳)・生産年齢人口(15～64歳)があまり伸びない一方、老年人口(65歳以上)は約2倍に増えています。

単身世帯の割合

46.4%

(平成22年国勢調査)

市民の家族構成をみると、核家族が48.6%であるのに対し、単身世帯が同程度の割合になっています。東京都における単身世帯の占める割合が45.9%であることから、小金井市には一人暮らしの市民がやや多くなっています。

合計特殊出生率

1.34

(平成26年東京都人口動態統計)

合計特殊出生率(1年間における15～49歳の女性の年齢別出生率の合計。一人の女性が一生に産む子ども数に相当。)は、平成20年まで減少傾向でしたが、その後上昇し、東京都(1.15)を上回り、全国平均(1.42)に近い数値となっています。

理想とする子どもの数(平均)

1.83人

(進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査)

16～39歳の市民2,000名を対象として実施したアンケートで予定する子ども数を尋ねたところ「2人」が約半数で最も多く、平均1.64人でした。一方、理想とする子ども数の平均は1.83人となっており、予定子ども数よりやや多くなっています。

20歳代前半の転入超過数

493人

(平成26年住民基本台帳人口移動報告)

市全体では転出者よりも転入者が多い状況(転入超過)にあります。特に20歳代前半の転入超過が特徴で、10歳代後半の年齢と比較しても大きく人口が増えます。一方で、30歳代前半と0～4歳の年代で特に転出者が多くなっています。

住みやすいと感じる市民

75.9%

(進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査)

16～39歳の市民の75.9%が小金井市を「住みやすい」「どちらかというに住みやすい」と感じています。ただし、子どもがいる人は、子どもがいない人よりも「住みやすい」と感じる割合が15.9ポイント低くなっています。

市民の定住意向

58.7%

(進学・就職・出産・子育てなどに関する意識調査)

16～39歳の市民の58.7%が「住み続けたい」「どちらかというに住み続けたい」と感じています。住み続けたいまちの要素では、街の安全・安心が最も求められており、自然環境、日常生活の利便性、子育て・子育て環境などが挙げられています。

市内で働く人

27,360人

(平成22年国勢調査)

市内で働く就業者は27,360人おり、そのうち、市外から通勤している人は15,211人と約56%を占めます。近隣の武蔵野市・三鷹市・府中市・小平市・国分寺市と比較すると最も少なく、最も多い府中市の約4分の1となっています。

小売業の年間商品販売額

64,956百万円

(平成24年経済センサス活動調査)

市内409か所の小売業事業所における年間商品販売額は約649億円となっています。近隣の武蔵野市・三鷹市・府中市・小平市・国分寺市と比較すると最も少なく、最も多い武蔵野市の約3分の1となっています。

教育・学習支援業の付加価値額における特化係数

5.22

(平成24年経済センサス活動調査)

市内企業の付加価値額(企業利益・人件費・減価償却の合計)をみると、教育・学習支援業が全体の14.19%を占めています。全国と比較して地域産業の特徴をみる特化係数は5.22となっており、本市の産業の強みだと言えます。

持ち家率

46.4%

(平成22年国勢調査)

市民の46.4%が持家に住んでいます。そのうち一戸建ては33.2%となっており、近隣自治体と比較すると、武蔵野市・三鷹市・府中市より高く、小平市・国分寺市より低くなっています。

人口ビジョン～小金井市のこれから

平成72年(2060年)の人口

99,800人

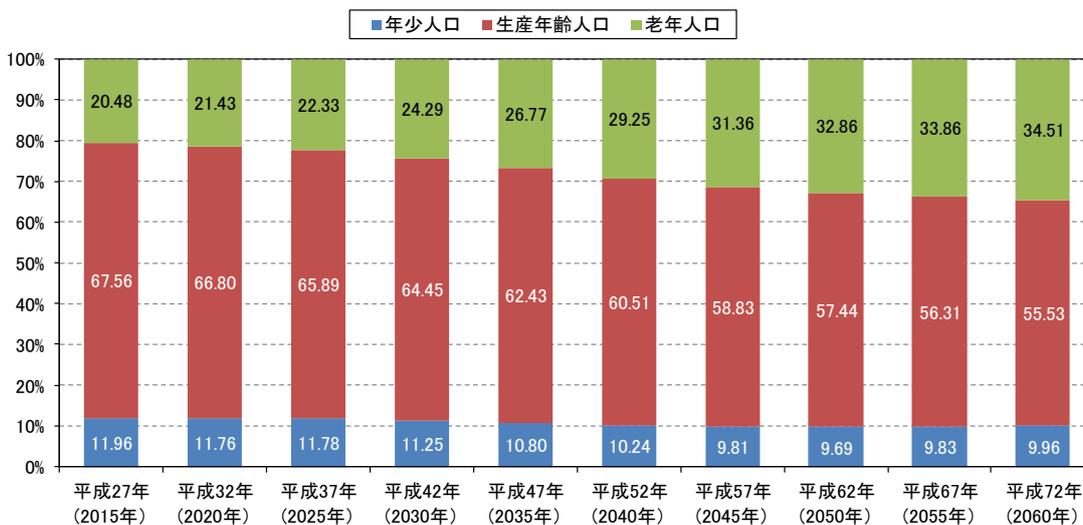
過去の出生状況が今後も変化することなく、将来的に転出入が落ち着くと仮定した場合、本市の人口は平成35年の120,012人をピークとして減少に転じ、平成72年には99,800人になる予想となり、現在より約1.8万人減少します。



平成72年(2060年)の高齢化率

34.51%

人口全体は減少しますが、老年人口(65歳以上)は増え続けると予想しているため高齢化率は現在よりも上昇し、平成72年には34.51%に達します。



※小数点以下第3位を四捨五入をしているため、合計が100%にならない場合があります。

今後の課題

課題1 若年層の転入維持・転出抑制

20歳代・30歳代での転入が多い一方、転出も多くなっています。若い世代の転入を維持しながら、同時に若い世代が住み続けたいと思う環境を整え、転出を抑制することが必要です。

課題2 子育て世代の住みやすさの向上

市民の多くが住みやすさを感じるなか、子どものいる市民は住みやすさの評価が下がることを踏まえ、子育て・子育て環境の充実を図ることが必要です。

課題3 暮らしを支える産業の振興

職住近接によるワークライフバランスの実現や、仕事と育児の両立による子育て世代の住みやすさの向上の観点から、小金井らしい地域産業の育成が課題です。

課題4 高齢化の進行への対応

高齢者が増え続けることを踏まえ、年齢を重ねても、誰もがいきがいを感じながら、安心して暮らすことができるよう高齢者の暮らしを支えることが課題です。

将来展望と目指すべき方向性

これら課題に対応し、将来的な人口減少・少子高齢化がもたらす影響を回避、ないしは遅らせるため、若年層や子育て世代の定住を図ることで、生産年齢人口の維持や増加はもとより、将来を担う年少人口の増加を目指します。

視点1 小金井市の魅力の発信と人々の交流から移住・定住への誘引

みどりが多く、閑静な住宅街という小金井市の強みを周知するとともに、魅力ある地域産業を育て、豊かな自然の保全・活用により、まちの魅力を高めます。そして、市民の暮らしやすさをさらに向上させるとともに、市外から人を引き寄せ、まちの魅力を実感してもらうを通じて、小金井市に住んでみたい・働いてみたいと思う人を増やし、長期的な視野に立って移住・定住へとつなげます。

視点2 いきいきとした子育て・のびのびとした子育ての促進

子育て支援のみならず、子どもを育てながら働くことができる環境づくりを進めることで、安心して子育てができるまちを実現します。また創意工夫を生かした特色ある教育を行う学校教育や大学等の教育機関は本市の高い教育力を支えており、強みであることから、教育環境の充実を図ることで、のびのび育ち、いきいきと学べるまちとなり、子どもを産み育てたいと思われることを目指します。

視点3 だれもが住み続けたいと思う安全・安心と自己充足の実現

子どもや子育て世代のみならず、高齢者も含めたあらゆる世代が、ソフト・ハードの両面で安全・安心な住環境のなかで、充実感を持ちながら暮らすことのできるまちを目指します。そのため、防犯・防災・健康・福祉はもとより、地域コミュニティの形成や生涯学習・市民協働等の観点から、若者と子育て世代・高齢者世代の交流を図ることなど、生きがいを感ずることのできる機会提供を図ります。

総合戦略～人口ビジョンを踏まえた5年間

基本目標1 小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、

自然環境・住環境という従来の強みを活かしながら、駅周辺を中心としたまちなぎわいの創出や、小金井らしい地域産業を育成することで地域を活性化し、小金井の魅力を形成します。さらにその魅力を市内外に広く発信することで、市外から人を呼び寄せ、回遊性を高めることで、さらなる地域活性化を図るとともに、長期的には移住・定住につなげることを目指します。

基本的方向1 魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進

- 施策① 豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進
 - 施策② 駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出
 - 施策③ 小金井の強みを活かした地域経済の活性化
- 【取組例】 ○緑地・公園の計画的整備
○駅周辺のまちづくりの推進
○産業の高付加価値化と創業・起業支援 など

基本目標2 多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち

将来にわたって安定した人口構成を維持するためのまちづくりを推進するため、若い世代が安心して結婚・出産・子育てができるような支援や環境の整備を図ります。さらに、子育て・子育ての観点からのみならず、保護者が子育てをしながら働きやすいワークスタイルをとることができるよう、長期的な視野に立ち、多様な働き方を実現できる社会の実現を目指します。

基本的方向1 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実

- 施策① すべての子育て家庭への支援
 - 施策② 地域全体で子育て家庭を見守る体制の構築
- 【取組例】 ○子育てしやすい環境整備
○子育てを支援する地域のネットワークの充実 など

基本目標3 時代に合った地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち

安全・安心を暮らしの基礎ととらえ、生活環境の整備や防災・防犯の取組を進めます。それとともに、安全・安心はもとより、市民一人ひとりが自己充足を得る場としても、時代に合わせた地域における人と人とのつながりに根差した地域コミュニティの形成を図ります。それを通じて、誰もがいきいきと健康で、安全・安心に暮らすことのできるまちを目指します。

基本的方向1 誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進

- 施策① 安心して暮らせる生活環境の整備
 - 施策② 地域の防災・防犯体制の確立
 - 施策③ 高齢者・障がい者の支援体制の充実
- 【取組例】 ○自然と調和した住環境の整備と保全
○自助・共助による地域防災力の向上
○災害時等における支援体制の充実 など

における取組(平成27年度～平成31年度)

地域の活性化につながるまち

基本的方向2 小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進

- 施策① シティプロモーションの推進
- 施策② 地域資源を活用した交流人口の拡大

【取組例】○イメージキャラクター「こきんちゃん」や観光大使の活用
○まちなか観光の充実を通じた交流人口の増加 など

基本的方向3 多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現

- 施策① 多様な主体が関わり合う環境の整備
- 施策② 交流、協働、連携に基づいた活動の充実

【取組例】○市民協働を支える体制の整備
○市民や NPO と協働した芸術文化の振興 など

基本的方向2 子どもの育ち・学びのための環境の充実

- 施策① 子どもたちがのびのび育つ環境の充実
- 施策② 子どもたちがいきいき学べる環境の充実

【取組例】○自然体験、社会体験活動の推進
○学校・家庭・地域が一体となった学校教育の推進 など

基本的方向3 小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現

- 施策① 職住近接となるしごとの創出
- 施策② 働きながら子育てができる環境の整備

【取組例】○コミュニティビジネスの創業・起業の支援を通じた就労機会の創出
○ワーク・ライフ・バランス社会の実現に向けた普及・啓発 など

基本的方向2 誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現

- 施策① 健康づくりの推進
- 施策② 高齢者の生きがいづくり

【取組例】○小金井さくら体操の充実等、健康づくりの機会提供
○就労を望む高齢者への機会の充実 など

基本的方向3 生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成

- 施策① 地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり
- 施策② 豊かな地域生活の実現

【取組例】○ボランティア活動などの情報提供・共有の促進
○図書館・公民館の充実と活用 など



小金井市